

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第56回放送の概要 (2012年10月27日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬 悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) 石川遼です。今僕たち若者の献血が減っています。僕たちが支えることで生きていける命があります。Love in Action、日本赤十字社。献血年齢の拡大や英国滞在歴の制限緩和など、採決基準が一部改正されています。詳しくはWEBへ。

(CM) エキストラ珈琲は、神戸で初めてのコーヒー豆焙煎問屋として、大正12年に誕生。その伝統ある個性的な存在は、高級コーヒーを厳選し、評価に値する味を提供する店として、広く皆様に愛されています。大河ドラマ「平清盛」もいよいよ終盤、清盛茶屋、能福時、真光寺へ是非お越しください。本日はエキストラ珈琲様 (電話 078-671-0135) のご協力を頂きました。

1. オープニング

過ごしやすい季節になり睡眠が良く取れるようになったが、コーヒーに含まれるカフェインにはリラックス効果があることが知られている。この効果は、飲むことで得られるだけでなく香りだけでも効用があるといわれている。またコーヒーを良く飲む人は、飲まない人に比べGTPが10以上低いそうです。

2. ゲストコーナー：何徳輝；安本久美子；吉村孝；李瀛；中嶋翠；高見守泰；佃靖子；坂本吉章

10月15日に兵庫県縦断を踏破した、兵庫高校OBの49陽会のみなさんにお越しいただきました。縦断をしたのは「49歩く会」のメンバーです。

(1) 縦断を計画したきっかけ

2011年6月に一ノ瀬さんのお兄さん(45陽会)が兵庫県を縦断したことを新聞で知り、何さんに縦断の計画を作るように頼み、なかちゃんには関係資料の提供をお願いした。

(2) ルートの決め方

出来るだけ交通量の多い国道などを避け、帰りの交通の便も考え、主に播但線沿いを選んだ。1日の距離は初めは現地に行くまでが遠いので10km余りであり、宿泊も取り入れた。出発点は城の崎の日和山、到着地は当初距離の短い姫路を考えていたが、メンバーから神戸にしたいとの要望があり、福崎から東に向けてコースを変更した。また冬季に雪を避けるため、



1月～4月はじめまで淡路島を縦断することにした。

縦断した全長は243kmで、13回に分けて19日間かかった。先輩の縦断では事故対応として車を併走させたが、49陽会は携帯が通じるコースを選んだ。

(3) 道中の楽しみ

吉村さんは地域に詳しく、淡路では地元の人と立ち話をしたり、店をよく知っていた。元気に歩くために芋焼酎などの気付け薬（リングルの点滴）を用意していた。電車の中、バスの中でも飲んでいたので、飲むために歩いているような人もいた。高見さんは道に迷ったことがあった。宿泊した時は日を超えて飲んでいたり、翌日は昼頃まで気分の悪い人がいた。12、13回に参加した66陽会の長田さんは、昼間から酒を飲むことにびっくりしていた。直線をジグザグで歩いたので距離のわりに歩数が3万歩を越えたのかもしれない。



出発式 (2011. 11. 3)



踏破式 (2012. 10. 15)

(4) 参加人数

全体では34人が参加したが、1回当たりの参加者は、最も少ない時で7人、完走者は何さん、安本さん、吉村さん、林さんの4人であった。吉村さんが完走できたのは、兵庫高校で鍛えられた目標達成に対する強い気持ちと、日程をうまく組んでくれたからである。また仕事で20年以上担当した兵庫県を再度見したいと思ったことも完走につながった。

(5) しんどかったこと、見所など

生野峠や青野ヶ原は本当にしんどかった。特にすばらしかったのは竹田城であった。行った時はサクラの咲く時期であったが、全くのつぼみであった。最終回の時はやれやれという気持ちで、もう歩かなくてもよいと思った。

(6) 前夜祭

しあわせの村で、完走前夜にキャンプファイヤーをし、学生時代のフォークダンスを思い出しながら大いに楽しんだ。女性はフォークダンスがとても上手であった。

(7) 踏破式

2012年10月15日に兵庫高校のゆかり館で、兵庫高校石井校長、大杉教頭、事務長にも参加していただき、更に神戸武陽会からも多くの方々に参加していただき、盛大に踏破式を行うことが出来た。そのときの食事は学校食堂に作ってもらったが、その経営者が吉村さんがハンドボール部に所属していた時の先輩であることがわかった。踏破式に掲げられた大きな横断幕は松本君に書いてもらったものである。

(8) 卒業50周年記念同窓会

11月3日神仙閣において卒業50周年記念同窓会を開催します。卒業生524名中、連絡が取れたのは420名、そのうち同窓会参加者は175名です。来賓も含め180名を超える皆さんが参加され、卒業生の3分の1が50年を経て全国から集まることとなります。



第1回



第2回



第3回



第4回



第5回



第6回



第7回



第8回



第9回



第10回



第11回



第12回



第13回



最終地



前夜祭

3. ミュージックコーナ：小曾根真 「Tee for Three」

神戸が生んだスーパースター小曾根真さんの15年ほど前のTee for Twoではなく、「Tee for Three」という曲です。

4. なかちゃんの「こぼれた話こぼれなかった話」：東北の学校の「ぼうさい甲子園」と東日本大震災

- (1) H A T神戸の人と防災未来センターは、平成17年から毎年、毎日新聞社と一緒に、「1.17 防災未来賞“ぼうさい甲子園”」という全国の防災に取り組む小中高大などのコンテストを実施しています。地元兵庫県からは、舞子高校、淡路高校、神戸学院大学、神戸大学がグランプリや大賞を受賞しています。東日本大震災を被った東北地方からも、多くの学校が参加出場し、グランプリや大賞、優秀賞などを受賞しています。
- (2) ちょっと紹介しますと、
 - ① 岩手県：県立宮古工業高校、宮古市立鍬ヶ崎（くわがさき）小学校、釜石市立釜石東中学校
 - ② 宮城県：南三陸町立入谷中学校、気仙沼市立階上（はしがみ）中学校、丸森町立丸森東中学校、東北福祉大学
 - ③ 福島県：福島県立双葉高校
- (3) このように、兵庫以外では、東北3県の学校での防災への取り組みは、マインド高いものがあります。これらの学校での彼らたちの日頃からの防災への取り組みは、余り有名でないものから、マスコミ等で取上げられたものまで、大変な被害の発生した東日本大震災でしたが、緊急の場で効果を発揮して災害から逃れたとか、地元住民の意識改革を促進して被害を最小限に留めたり、被災後の避難生活への支援など、大人顔負けの大活躍に繋がったのです。
- (4) そのなかでの事例を紹介します。
 - ① 釜石東中学校：校舎の3階まで津波に吞まれてほぼ全壊。釜石東中生徒約210名、即座一斉に指定避難所へ駆ける。それを見た隣の鶴住居（うのすまい）小学校の児童役360名も後を追う。地区住民たちも含めて約700名が避難。ところが、裏山崩壊の危険を察知し、中学生が小学生の手を引っ張って更に高台の介護施設へ走った。大人たちもこれに習う。間一髪で津波は介護施設の手間で止まり、避難した全員が助かったのです。これが「釜石の奇跡」と言われています。
 - ② 宮古市立鍬ヶ崎（くわがさき）小学校：授業中に地震発生。児童240名校庭に整列し高台の中学校へ避難するところ、津波の襲来を察知。指定されていた1km先の中学校への避難をあきらめ、裏山の神社へ素早く避難。校庭校舎は数分後に津波に吞まれた。日頃から防災教育に力を入れ、「津波防災マップ」「津波防災カルタ」で遊んでいたし、避難して助かった裏山は、震災8日前の訓練の時に逃げた場所だった。
 - ③ 宮古工業高校：海から1km以上離れていたのに津波に襲われ、校庭、校舎1階は水没。日頃から、機械科の取り組みで、水槽と組み合わせて津波発生時の浸水の様子を再現できる「津波模型」を制作し、これを使って周辺地域住民への注意喚起を徹底していた。被害軽減に役立った。
 - ④ 南三陸町立入谷中学校：高台にあったので、直接の津波被害はなかったが、後に地域の避難所になって、運営に協力した。ちょうど学校再編の検討中であつたので、3年前に近くの志津川中学校に統合された。
 - ⑤ 宮城県丸森町立丸森東中学校：内陸部にあって津波被害はなし。地域と共同で防災訓練をよく実施していた。避難所となって、生徒たちも開設と運営活動に協力。しかし、校舎は亀裂が入り、修復しなければ今後の使用は無理とのことで、今年創立50周年を機に閉校となった。
 - ⑥ 福島県立双葉高校：旧制中学以来の名門校。日頃の防災教育活動には熱心でしたが、それを発揮する間もなく、津波被害よりも、原発事故により20km以内の避難指示が出て、遠く喜多方など県内各地に分散してサテライト方式での授業を再開している。残念でしょうね。
 - ⑦ 気仙沼市立階上（はしがみ）中学校：防災教育の先進校。高台に建っており、津波被害は免れた。2000人以上の避難民を収容し、生徒たちも避難生活を支えた。避難民を交えた卒業式で、卒業生代表の梶原裕太君の答辞は、マスコミでも報道され、被災の辛さや復興への取り組む

覚悟など被災者を代弁したその言葉は、全国に感動を与えました。そのフレーズに、
「・・・・階上（はしがみ）中学校といえば“防災教育”といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人願の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。・・・・」

- (5) このように、日頃から学校や地域で取組まれる優れた防災教育・活動は、生徒・児童だけでなく、家族や地域住民の防災感覚を向上させます。毎年、全国の学校から、「ぼうさい甲子園」に挑戦・応募してきますが、東日本大震災での事例を見れば、彼らの取組みが地域を救うことに繋がっています。
- (6) なお、「ぼうさい甲子園」は昨年23年には、東日本大震災特別賞として被災地で防災教育に取り組む学校を、また東日本大震災支援特別賞として被災地の支援活動に取り組んだ学校を表彰しています。

5. あこちゃんの地域瓦版

本日のゲストの坂本吉章さんの個展が11月2日（金）～8日（木）まで、トアギャラリーで開催されます。10月29日（月）～30日（火）、17時～20時に神戸朝日ビルで灘五郷蔵元15社の特別試飲会が開催されます。明日神戸ワイナリーで新酒祭りも開催されます。

6. 来月のゲスト

来月は兵庫高校校長の石井稔先生にお越しいただきます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com